



故 安 藤 孝 雄 先生

安藤孝雄先生（2020年7月30日永眠，89歳）

▷略 歴◁

1931年1月1日	出生
1949年3月	大阪府立天王寺高等学校卒業
1955年3月	大阪大学工学部醱酵工学科卒業
1955年4月～1955年12月	大阪大学工学部研究生
1956年1月～1961年4月	株式会社北川本家京都市工業試験場醱酵食品研究室勤務
1961年5月～1966年5月	兵庫県立姫路工業大学助手
1966年6月～1970年3月	兵庫県立姫路工業大学講師
1968年4月～1970年3月	同志社女子大学嘱託講師
1970年4月～1975年3月	同志社女子大学助教授
1975年4月～1996年3月	同志社女子大学教授
1979年4月～1996年3月	同志社女子大学大学院家政学研究科教授
1977年4月～1981年3月	同志社女子大学教務主任
1982年4月～1984年3月	同志社女子大学家政学部長兼食物学科主任兼大学院家政学研究科長
1986年4月～1989年9月	同志社女子大学図書館長
1992年4月～1994年3月	同志社女子大学大学院家政学研究科長
1996年3月	定年退職
1996年4月	同志社女子大学名誉教授

▷学 位◁

工学博士

▷主な担当科目◁

調理科学Ⅱ，調理科学実験，有機化学，調理科学，調理学演習，食品官能検査論，調理科学特論

▷所属学会◁

日本醱酵工学会，日本農芸化学会，日本家政学会，日本食品工業学会，調理科学研究会，関西穀物科学研究会

実直のひと ー安藤孝雄先生を偲んでー

私の机の引き出しには、一通の封書が、約四半世紀の間、大切に保存されています。送り主のお人柄を映し出すように大変丁寧な、かつ整った文字で、18枚もの便せんに綴られているのです。

私は、1994年4月に10年ぶりに地方の大学から、京都の地に帰って来ました。京都は、大学院時代を過ごした地でもあり、その自由・闊達さに慣れていたはずですが、どうも同志社特有の(当時の家政学部特有のと言うべきか)風土になかなかなじみず悶々とした日々を過ごしたものです。どうやら私が、京都の風土として享受していた自由・闊達さは、私が学んだ大学院の風土であってこの地のものではなかったようです。

そんな中、ある一人の教授に惹かれます。彼は、会議で余り発言されることはなかったのですが、たまに発言されると朴訥ながらもその内容は、理路整然とし、大変説得力のあるものでした。彼の普段の立ち居振る舞いや言動は真面目そのもので、教授とはかくあるべしと私の目には映ったものでした。その先生こそが、当時調理科学を担当されていた安藤孝雄先生です。入社後1年ほど経ったとき、何を思われたか印刷室で仕事をする私をたまたま見つけられ、「西村さん。あなたを採用して本当に良かった。」と唐突にお声をかけてくださいました。思う存分自分の力を発揮できていないと感じていた私は、私のどこを見てそう思われたのか分からず、大変驚きましたが、安藤先生に認めていただけたことがうれしくて、有頂天になったことを思い出します。遠い存在だった安藤先生が、近づいてくださった瞬間でもありました。

安藤先生は、1996年3月に退職されます。心の支えを失ったようで、大変悲しかった。先生がおられなくなった職場で、諸事瑣末な事に煩わされ、鬱々とした毎日を過ごしていた時、一度、安藤先生に相談してみようと、厚かましくも思いの丈を文章にして、先生にお送りしたのでした。返事は、なかなか返ってくることはなく、先生を怒らせてしまったのかなと不安がわき上がって来た頃、一月の時を越えて私の手もとに届いた手紙が、冒頭のものでした。手紙は、的確な答えが見いだせず徒に時が経ってしまったことをわびる文章から始まり、私の悩みに寄り添い、ご自身の経験を踏まえながら、先生のお考えをしるされたものでした。選び抜かれた示唆に富む珠玉の言葉が並びます。特に「40代になって新しい職場へ来た場合、親しい深い付き合い、人間関係が欲しい、出来なければならない、と思わないことです。そう思うことで小生は気が楽になりました。」と自分の経験を振り返りながら記されたこのくだりは、人間関係のしがらみにとらわれていた私の目を見開かせます。

私の人生の目標は、何だったのか?下町に育った私は、経済的に厳しくとも、汗にまみれて、真摯に働く人々を多く見てきました。大学に進み研究者となることで、自らが得た知識や科学を、学びたくても学べなかった人々に役立てようと若き頃、志したのではなかったのか。そのために今自分はなにほどの努力をしているのか?40年の人生で、こびりついた塵芥は、私の目を曇らせ、なさねばならぬことを見誤らせていることに気づかされます。それを境に、私は、“群れる”ことから距離をおくこととしました。

そんな若造も、この大学で27年の時を刻むことになりました。この間、研究・教育・大学運営を経て、いろいろ経験させていただきましたが、何かトラブルが生じて、困ったとき、迷ったときには、この手紙を引き出しから取り出しては、幾度も読み返したものです。読み返すごとに、新しい示唆が見つかり、勇気づけられ、この27年間でなんとか乗り越えることができました。

2012年の昭四会*で久しぶりに出席くださった先生ととりとめのないお話をしたことが懐かしく思い出されます。先生は、現役の頃と全く変わらず、真摯にかつ誠実にお話をしてくださいました。その時、先生に手紙のお礼を言おうとしたのですが、何故か気恥ずかしくて切り出せなかったことが、今は悔やまれます。

安藤先生。先生の実直さに救われた人間がここにいます。長い間、本当にありがとうございました。これからも、先生からいただきましたご示唆を一つ一つかみしめて、人生の final stage を歩んでゆきたいと思います。そして、いつの日かもう一度お会いしたとき、「あなたを採用して本当に良かった。」と再び言っていただけるように今後も精進いたします。どうか、先生、安らかにお休みください。

*昭四会：本学の全学懇親会。教職員のOB・OGも招かれる。